

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO
image
forum
festival 2026

40TH IMAGE FORUM FESTIVAL

イメージフォーラム・フェスティバル 2026

9/19 [土] → 9/25 [金]

シアター・イメージフォーラム

LIGHT SPIRITS: BODY, FILM, PERFORMANCE
映画祭

●イラストレーション——近田春夫

主催——イメージフォーラム
協賛——株式会社ダゲレオ出版
助成——芸術文化振興基金
協力——在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランス

東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション

East Asian Experimental Competition

「東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション」は日本、中国、香港、マカオ、台湾、韓国の東アジア地域を対象とした公募部門であり、同地域出身または在住の作家による2025年以降に制作された映像作品を対象としています。本年は過去最多となる585作品の応募があり、厳正なる一次、二次審査を経て東アジアの「今」を映し出す注目作品20本がノミネートされました。また新設部門「ジャパン・エクスペリメンタル」には、同コンペティション一次審査通過作品より、日本作品5本が選出されました。最終審査は各分野から招聘した3名の審査員によって会期中に行われ、9月25日にシアター・イメージフォーラムで行われる授賞式で入賞6作品と観客賞を発表します。

最終審査員



折笠良
ORIKASA Ryo
アニメーション作家 [日本]



樋口泰人
HIGUCHI Yasuhito
映画評論家 [日本]



マリー・ロジエ
Marie LOSIER
映画作家、キュレーター [フランス]



A 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション1

5作品 | 94分

IF 9/19 SAT 11:00 | 9/23 WED 16:00

チャタギル・ポッターはかく語りき

Thus Spoke Chatergil Potter

ティン・チーウェン | TING Chi-wen ● digital ● 22min ● 2026 ● 台湾 ● 死から蘇ったポッター神父は、人と人ならざるものの狭間で「この世」を見つめ直す旅に出る。生前告解室で他人の問いに答えを与えてきた神父が、肉体を失って「人間とは何なのか」という実存的な問いと向き合う。ファウンド・フッターや生成AIの映像素材を巧みに織り交ぜ、「非人間」の視点も踏まえその問いを際立たせるポストAI・シュールリアリズム映画。



透明列車

Fly Train

リア・チャン・ルーウェン | Ria ZHANG Riwen ● digital ● 4min ● 2025 ● 香港／中国本土 ● 車窓の外に広がる夜景に立ち並ぶビル影、疾走する列車の連続する明るい窓……。浮遊感のある夢が増殖し、映画の初源的イメージと近代都市の風景が交感しながら観客の記憶を刺激する。影絵を使ったハンドメイドな手法が、作品の世界観に情感を加える夢幻的ファントム・ライド。



シャオガオは結局一人で老いていく

Xiaogao gonna die LONELY

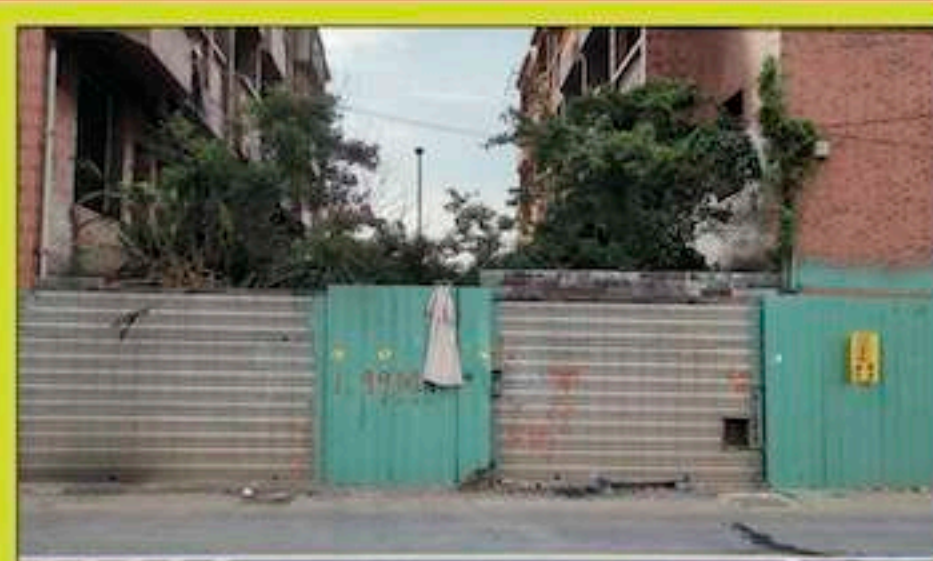
ガオ・ジュンイェン | Isabelle GAO ● digital ● 8min ● 2025 ● 中国本土 ● いわゆる“ミレニアル世代”と“Z世代”の間で宙ぶらりんの主人公・シャオガオは、友人や家族、恋人との関係をごじらせながら、結婚や出産をめぐる社会からの重圧にもなんとなく押しつぶされそう……。作者自ら監督&主演を務め、自身の経験を土台とした物語を、リズミカルで奇想天外な場面展開によってコミカルに描いた。



魔神仔がいる場所へ、それでも帰りたいの？

Well-Intentioned

チエン・マンチュン | CHIEN Man-Chun ● digital ● 30min ● 2025 ● 台湾 ● 空港の拡張によって、亡き母との記憶が刻まれた実家を失うことになった作者。母の死と、時に人をさらうという台湾の妖怪「魔神仔(モシナ)」のイメージが重なる。ノート、母の服、作者による絵画など、母の不在を映し出すものを通して、作者の喪失感や残された父との関係が綴られる。プライベートドキュメンタリーの秀作。



大賞 1点	賞金30万円 + 賞状
寺山修司賞 1点	賞金10万円 + 賞状
優秀賞 3点	各賞金3万円 + 賞状
ジャパン・エクスペリメンタル賞 1点	賞金3万円 + 賞状
観客賞 1点	賞状

緑の親玉

Boss of Green

帯谷有理 | OBITANI Yuri ● digital ● 30min ● 2026 ● 日本 ● 1990年代より個人映画の分野でユニークな実験的作品を発表してきた帯谷有理の最新作。街角でトイピアノを弾き“テンテン”を探す男に邂逅した「私」は……。作者の代名詞といえる作り込まれた音像と全編主観ショットで貫かれ、観客を奇妙な日常世界へといざなっていく。田畑を突っ切る一本道のロングテイクに注目。



B 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション2

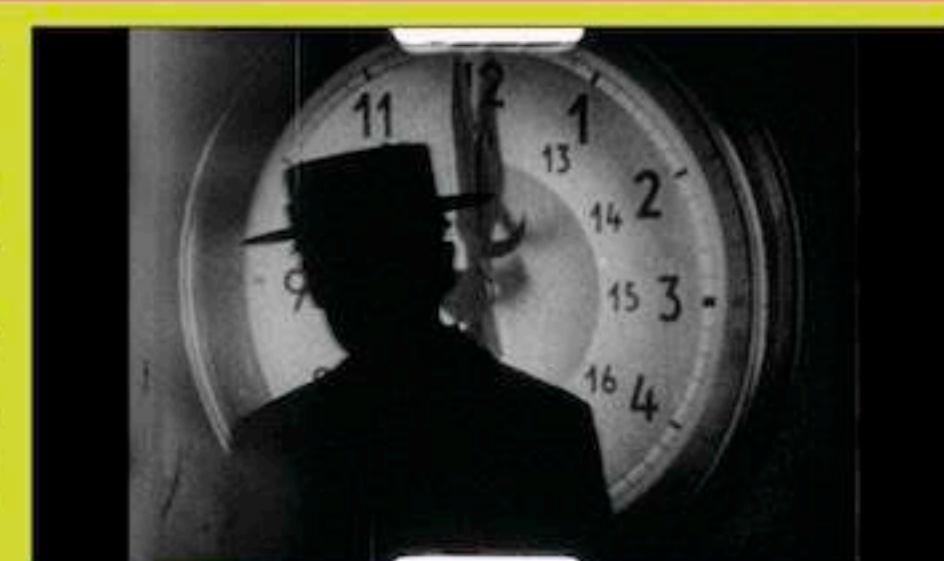
5作品 | 90分

IF 9/19 SAT 13:30 | 9/23 WED 11:00

月世界のアマチュア

Amateur in the Moon

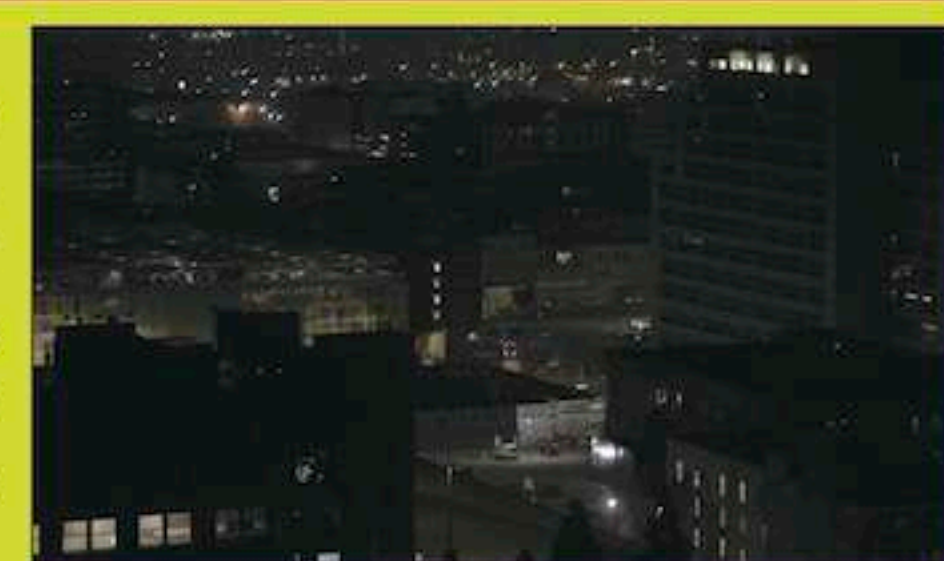
ホアン・パンツアン + リン・ジュンニー | HUANG Pang-chuan + LIN Chunni ● digital ● 22min ● 2025 ● 台湾・日本 ● アマチュア映画作家・吉川速男がフリッツ・ラングの「月世界の女」に触発され、SF映画制作を志すというエピソードを軸に、戦前の日本と台湾のアマチュア映画の世界を描く。作品の多くは戦火で失われたが、本作の二人の作家は復刻された9.5ミリフィルムで全編を撮影。小型映画にかけた青年たちの情熱を鮮やかに蘇らせる。



宵星の歌

Singing of the Evening Stars

アイリス・サン | Iris SANG ● digital ● 23min ● 2026 ● 中国本土 ● 夜のロサンゼルスでさすらい男。その耳に響き始める鳥の声は、やがて街の光を小鳥の群れへと変えていく。かつてこの地に広がっていた大自然は、いまやビル群の下に消えた。鳥の歌は、失われた風景の記憶を呼び覚まし、この土地に刻まれた歴史を静かに浮かび上がらせる。都市と自然、現在と過去が交錯する幻想的な映像詩。



走

走(zǒu)

ウー・ハナ | Hannah WU ● digital ● 4min ● 2025 ● イギリス／台湾 ● 母親の古い中英辞典から「走(歩く)」という文字をめぐる思考が始まる。インクの描線やフィルムへのダイレクトペイントによって、「走」という文字や、想起されるイメージが次々と現れ、歴史的な意味から個人的な記憶まで、様々な姿を変える。言葉とイメージの間をさまよいつつ、世界を知ることについて思索する実験的作品。



新しいうちにチュ!

Mwah to My New House!

○ 幸洋子 | YUKI Yoko ○ digital ○ 11min ○ 2025 ○ 日本
○ 災害により家と飼い猫を失うかもしれないという不安に包まれていた幼少期の記憶を元にした作品。児童文学を思わせる台詞回しと軽快で賑やかな物語の展開に、イラストや切り絵など多彩な手法を織り交ぜる作者独自のスタイルが見事にマッチしている。手作業の温もりに満ちたアニメーションに猫への深い愛情があふれて見える。



風隙

Wind Gap

○ チョンルー・シンユェン | ZHENG LU Xinyuan ○ digital ○ 30min ○ 2026 ○ 中国本土 ○ 惰性で付き合っていたパートナーとの間で予期せぬ妊娠をしてしまったミンは、中国ベトナム国境を目指してひとり当てもなく旅に出る。霧深い山間地帯で夢と現の間を彷徨う主人公の寄り辺なさを、全編広角カメラの特徴的なロングショットで捉えた。現代中国社会に生きる若者の心の機微を描いた、オフビートなロードムービー。



東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション3

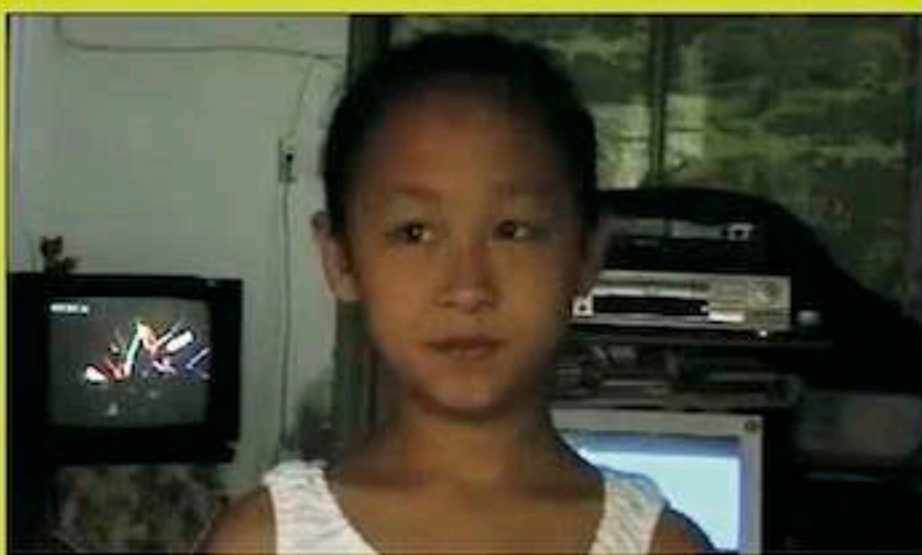
5作品 | 86分

IF 9/19 SAT 16:00 | 9/23 WED 13:30

録画

Recording

○ チャン・モーイン | ZHANG Moying ○ digital ○ 12min ○ 2026 ○ 中国本土 ○ 親に言われるがまま一流大学の前で将来の進学を誓う、年端もいかぬ女の子たち。子の幸せを願う親が思い出に残したはずのホームビデオが、子の視線を介して、親のエゴやその背後に潜む社会構造を映し出すアーカイブと化す皮肉。作者自らの幼年期のホームビデオを編集した本作は、ブラックユーモアか、子のさやかな復讐か。



リキュール

Liquor

○ イーチェン・ホアン | Yi-Chen HUANG ○ digital ○ 5min ○ 2025 ○ ドイツ／台湾 ○ 病に侵された母を救うため、娘は母の体内から出たへその緒でできた巨大なストローで、母の頭の中に溜まった水を取り出そうとする。しかし、母の姿は消え、娘自身が水の中へと沈み、記憶の海をさまようことに。母と娘との関係を想像力豊かに、力強いイメージで描いた作品。2026年オーバーハウゼン国際短編映画祭上映作品。



雲は過ぎ去り雨は降らず

Where Clouds Once Formed

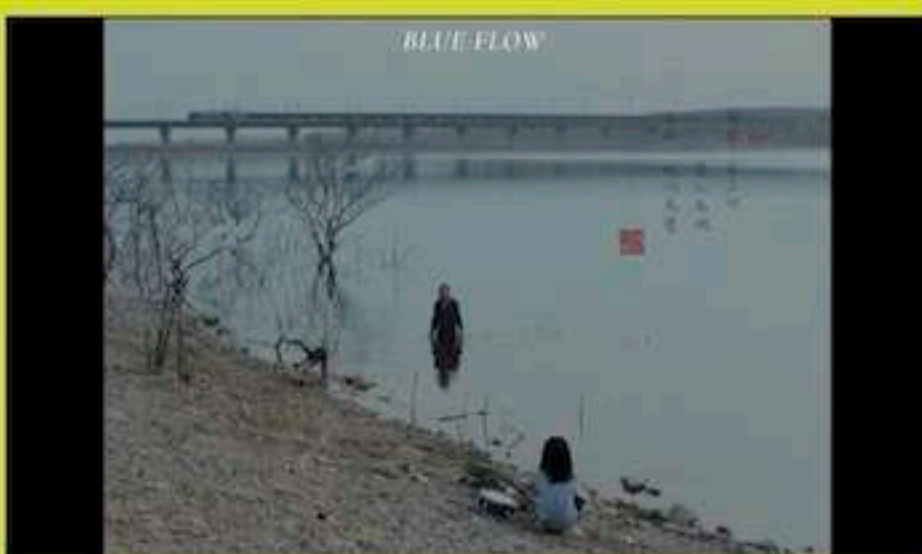
○ スー・ユーシン | SU Yu Hsin ○ digital ○ 14min ○ 2025 ○ 台湾 ○ 自動運転の車から撮影される、AI処理と半導体生産の地となったアリゾナの砂漠の風景。そこに広がるのは水の無い自然環境に生まれた、水を大量に消費する産業が形づくった非現実的なテクノ・ユートピアだ。サウンドトラックに重ねられた砂漠の民トホノ・オードム族の雨乞いの歌が、人間の叡智とは何かを問いかける。



曲水

Blue Flow

○ シェン・リンズー | SHEN Linzi ○ digital ○ 21min ○ 2026 ○ 中国本土 ○ 同じ川辺を舞台に、1952年、1983年、1995年という異なる時代を生きる人々を描く。長回しの横移動撮影によって時間を運ぶ絵巻物のように風景が展開し、川へ飛び込む女性と一匹の魚のイメージが時代を超えて記憶をつないでいく。「蘭亭序」の引用もまた、悠久の時の流れと人生の儚さを静かに浮かび上がらせている。



蟲のいどころ

Creep Beneath the Earth

○ 山田沙奈恵 | YAMADA Sanae ○ digital ○ 34min ○ 2026 ○ 日本 ○ 地震をもたらすとかつて信じられていた鯰は、復興の希望の象徴としても扱われてきた。閉塞感とカタストロフィーの予感が両義的に満ちる現代日本社会の感覚を〈災害と復興〉の政治学を通して描出する饒舌なエッセイフィルム。人間的スケールを超えた地学的・歴史的なマクロな視点は、本作家のIFF2018ノミネート作品『With Friction, As Friction』とも共通する。



東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション4

4作品 | 85分

IF 9/20 SUN 11:00 | 9/22 TUE 13:30

韓国で一番おもしろいホームビデオ

Korea's Funniest Home Videos

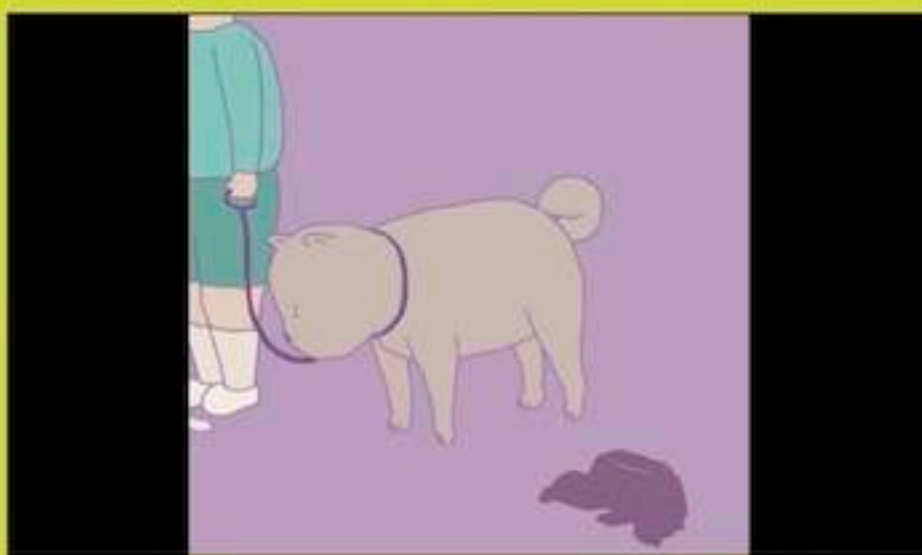
○ キム・クッキ | KIM Guki ○ digital ○ 15min ○ 2025 ○ 韓国 ○ “ホーム”が、まともにも存在しなかった生い立ちの作者。あえてホームビデオを撮ろうと決意し「唯一の家族」である祖母に会いに行く。イメージの不在を、購入した2010年代の中古デジタルカメラの粗い映像と生成AIで埋めていく。SNS投稿文化のフィルターにかけ、極めてパーソナルな個人の物語が“ストーリー”化され2010年代以降のメディア史と反響する。



ちいさなうりぼう

little boarlet

○ 和田淳 | WADA Atsushi ○ digital ○ 4min ○ 2026 ○ 日本 ○ 世界の四大アニメーション映画祭にノミネートされるなど、国際的に活躍するアニメーション作家・和田淳の新作。独特の「間」と、心地よい動きは本作でも健在だ。走ってはものにぶつかっていく「うりぼう」に、散歩中の犬、組体操の少年たち、コンビニでもめる人々などが絡み合い、日常の風景は奇想天外に変貌していく。



赤地をゆく牛たち

Redland Hooves

○ カイウェン・レン | Kaiwen REN ○ digital ○ 27min ○ 2025 ○ 中国本土 ○ 夜の暗がりに浮かび上がる動物や人影、失われた人の気配を感じさせる室内の風景——。色調の抑えられた16ミリフィルムのフッテージに、白光が歌うかつての中国の流行歌「魂繫舊夢」や様々なノイズ音がコラージュのごとく重ねられる。私信のような欠落したテキストの断片が、不安に満ちた複雑な情感を呼び起こす。



コンパクト・ディスク

Compact Disc

○ リコ・ウォン | Rico WONG ○ digital ○ 39min ○ 2026 ○ イギリス／香港 ○ 香港民主化デモに当時16歳で参加し逮捕された青年たち。月日を経て親友同士再び集まった彼らは、自分たちにカメラを向け、当時の記録を収めたコンパクト・ディスクを再生する。しまい込んでいた記録／記憶を直視することの困難と向き合い、移ろいゆく社会と若者たちの現在地を率直に提示した、パーソナルなドキュメンタリー。



東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション5

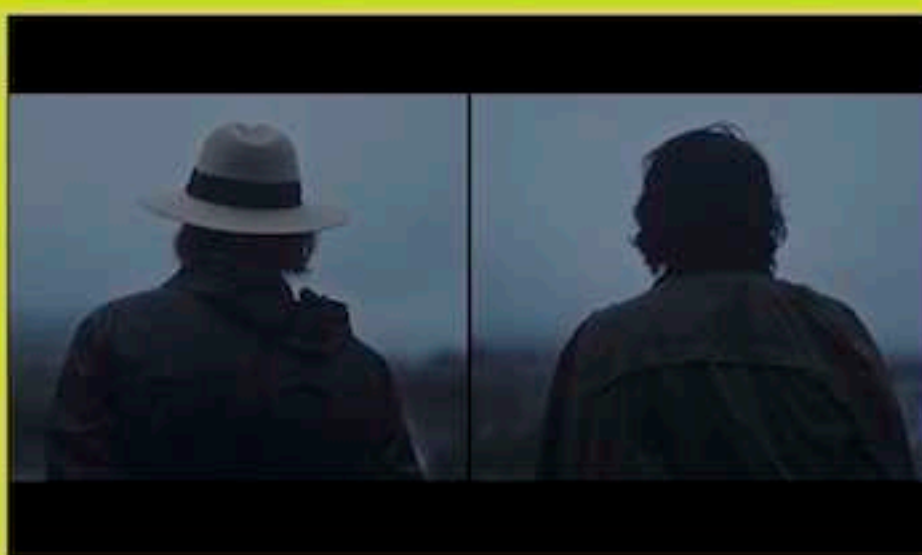
1作品 | 92分

IF 9/20 SUN 13:30 | 9/22 TUE 16:00

オー・バレンタイン

Oh, Valentine

○ ホン・ジンフォン | HONG Jin-hwon ○ digital ○ 92min ○ 2025 ○ 韓国 ○ 2004年2月、韓国現代重工業で下請け労働者バク・イルス氏が焼身自殺を図った。経済危機の余波で急増した非正規雇用をめぐる労働争議が激化する中、彼の死は更なる闘争を引き起こした。韓国美術家賞2026にも選出され注目される作者が、IFF2022受賞作『メルティング・アイスクリーム』に続く最新作として発表。砕かれた革命のその後を見つめる。



F | ジャパン・エクスペリメンタル

Japan Experimental

5作品 | 109分

IF 9/20 SUN 16:00 | 9/22 TUE 11:00



feeling together 共在

feeling together

○ ふくだべろ | fukudapero ○ digital ○ 25min ○ 2026 ○ ルワンダ / 日本 ○ 暗闇の中、怒号と悲鳴が沸きあがる。激しく罵り殴り合う男女へと向かっていくカメラ。騒動は周囲の村人を巻き込んで広がっていくように見えるが、やがて諍いの当事者は歌い出し、怒りが集団の踊りへと伝染していく。強烈なワンショットの映像を通し、撮る者と撮られる者、そしてそれを見る者＝観客がとり結ぶ関係性について問いかけるドキュメンタリー。



眠る眼

Sleeping Eyes

○ 宮川卓也 | MIYAKAWA Takuya ○ digital ○ 12min ○ 2026 ○ 日本 ○ 空から舞い降りてくる黒い物体は、“モリス”ならぬスマートフォンである。現代社会を侵食する視覚情報の洪水に、読む・見ることの自由を奪われた人間は、やがてその身体さえも記号化され、デジタル変換されていく。ゲームエンジンや3Dキャプチャ、視線追跡技術を用い、日常の風景を風刺的に描き出すことに挑戦した。



Our Times

Our Times

○ ソネソラ | SONE Sora ○ digital ○ 10min ○ 2026 ○ 日本 ○ フィルムの多重露光による撮影が、青空と緑に包まれた平穏な風景の中で行う登場人物たちの行為に小さなズレを生んでいく。そのズレは日常の新しい“別の”可能性を示すのか、あるいは繰り返される日常という逃れられない限界を示すのか。ポエティックなテキストとアナログフィルムの温かい手触りで綴られる、現実に対する希求。



冬の実

My Winter Berry

○ 竹原結 | TAKEHARA Yu ○ digital ○ 9min ○ 2026 ○ 日本 ○ 認知症になった祖母と過ごすやさやかな日常が、写真や映像を織り交ぜた暖かなアニメーションで綴られる。「記憶とともに愛情も消えてしまうの？」少しずつおぼろげになってゆく祖母の世界に、「私」の居場所を探し求める。同作者のIFF2023ノミネート作『mom is どこ』から一貫し、記憶や家族をめぐる主題を丁寧に表現した。



Teteu

Teteu

○ 磯部和弥 | ISOBE Kazuya ○ digital ○ 53min ○ 2026 ○ 日本 ○ インドネシアの西スマトラの森に生きる少年“ジャブジャブ”を静謐な映像で追うドキュメンタリー。森と共生する伝統的な生活を選ぶ先住民たちは、外からの開発による影響を受け、否応ない変化へと巻き込まれていく。都市へ出て学校に通う少年の姿と、森での暮らしの様子が端整なモノクロとカラーの映像で対比される。



エクスペリメンタル・パノラマ

Experimental Panorama

G・H・I | マリー・ロジエ特集

——アンダーグラウンド・スーパースターズ

Marie LOSIER: Underground Superstars

[共催] 東京日仏学院 + イメージフォーラム

名だたる伝説のアヴァンギャルド・アーティストやパフォーマーたちを愛情込めて、ポップでキッチュな世界観で描き出した作品で知られるマリー・ロジエ。カンヌやベルリン映画祭、MoMAやボンビドー・センターでも特集が組まれ、注目されているマリー・ロジエの型破りでエネルギッシュな映画の数々を堪能できる特集。東京日仏学院と共同開催で主要作品をほぼ網羅する、本邦初の大規模レトロスペクティブ！

私の人生における最も素晴らしい出会いが、型破りなアーティストたちを描いた私の伝記映画のインスピレーションの源となっています。その作品は、常にその人物との共同作業を通じて作り上げられるのです。私にとって身体とは、とても特別な存在です。あらゆる身体に惹かれますが、それだけではありません。痛みや脆さ、傷跡、変容、そしてさまざまなジェンダーにも心を動かされます。完璧に美化されたものよりも、そうしたもののほうが、私にはずっと語りかけてくるのです

——マリー・ロジエ

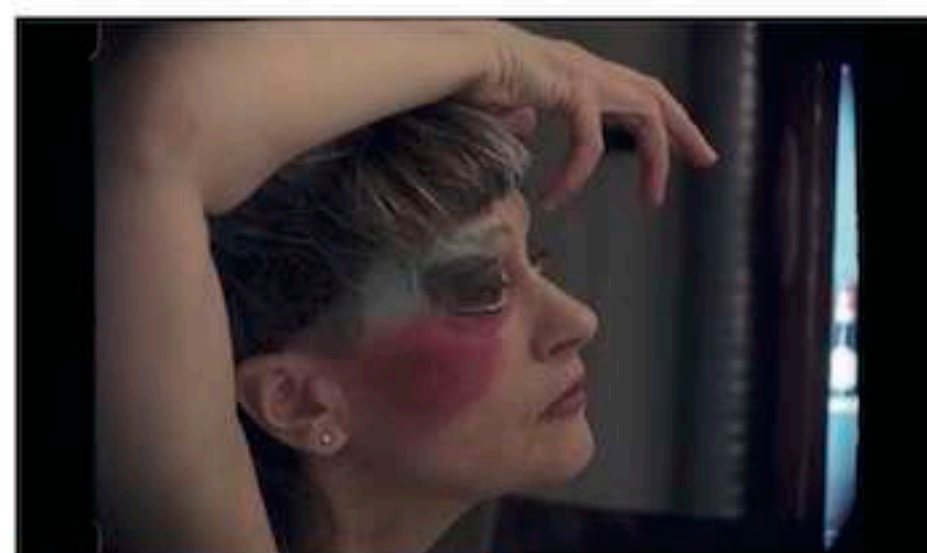
G | ピーチズ・ゴーズ・バナナズ

Peaches Goes Bananas

1作品 | 74分

IF 9/21 MON 18:30 | 9/25 FRI 18:30

ベルリンを拠点とするエレクトロポップ・ミュージシャン、パフォーマー、クィア・フェミニスト・アイコンのピーチズ(Peaches)を17年間追い続けた生々しいエネルギーに満ちたポートレート。自らと被写体との関係の変化を作品へと昇華するマリー・ロジエ。本作は、そのドキュメント・スタイルの到達点とも言える一本である。二人のアーティストの邂逅から生まれる情熱と創造のエネルギーが、鮮やかにフィルムへと刻まれている。ヴェネツィア国際映画祭「ヴェニス・デイズ」部門招待作品。



ピーチズ・ゴーズ・バナナズ

▶ ピーチズ・ゴーズ・バナナズ | Peaches Goes Bananas ○ 出演 ピーチズ ○ digital ○ 74min ○ 2024 ○ ベルギー・フランス

* 9/21 月・祝 18:30上映後、マリー・ロジエによるティーチンあり(予定)

H | 闇に吠える + アラン・ヴェガ たった幾億の夢

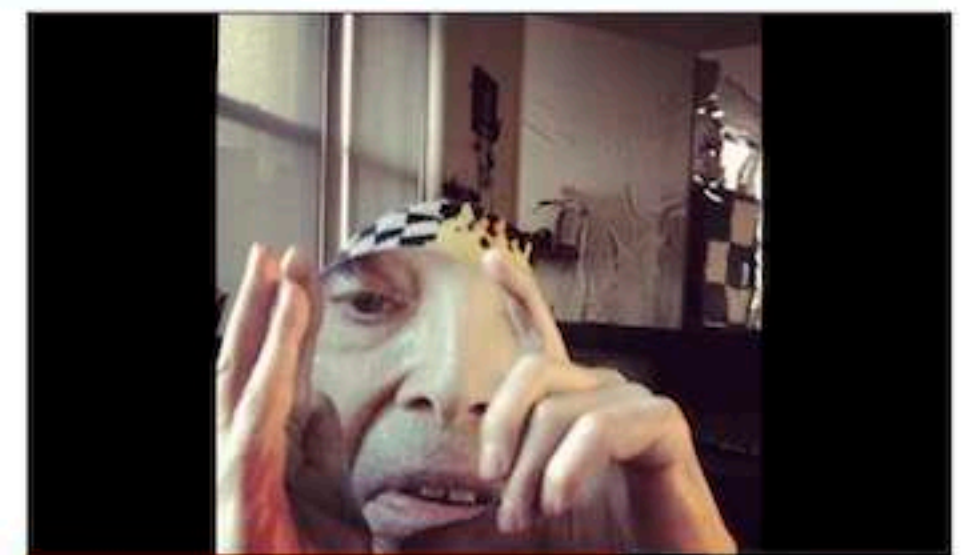
Barking in the Dark + Alan VEGA: Just a Million Dreams

2作品 | 59分

IF 9/21 MON 21:00 | 9/23 WED 21:00

カルト的な人気を誇る目玉のマスクとタキシード姿でおなじみのアヴァンギャルド・ミュージック集団レジデントと伝説的バンド、スーサイドのアラン・ヴェガの2大中編プログラム。

50年以上にわたるアメリカのアートシーンをその奇妙な音楽とパフォーマンスで幻惑し続けたレジデント。その正体は誰にも知られていない。彼らのマネージメントを務めるクリプティック・コーポレーション代表のホーマー・フリンが、ガレージに眠る遺物を手に、彼らの歴史をマリーに伝える。現時点でのマリー・ロジエ最新映像作品。



アラン・ヴェガ——たった幾億の夢



闇に吠える

▶ 闇に吠える | Barking in the Dark ○ 出演 ザ・レジデント、ホーマー・フリン ○ digital ○ 43min ○ 2025 ○ フランス

▶ アラン・ヴェガ たった幾億の夢 | Just a Million Dreams ○ 出演 アラン・ヴェガ ○ 16mm(デジタル上映) ○ 16min ○ 2024 ○ フランス・アメリカ

* 9/21 月・祝 21:00上映後、マリー・ロジエによるティーチンあり(予定)

ドリーミニマリスト + 短編集

Dreaminimalist + Short Selection

5作品 | 68分

IF 9/22 TUE 21:00 | 9/24 THU 21:00

ジョージ・クッチャー、リチャード・フォアマン、ガイ・マディン、トニー・コンラッド。文字通りの「アンダーグラウンドのスーパーstar」たちが、マリーの世界でパイを投げ合い、スパゲッティ・ソースにまみれて大暴れ！



トニー・コンラッド——ドリーミニマリスト

▶ 我がメーキャップを喰らえ！ | Eat My Makeup! ○ 出演 ジョージ・クッチャー、マ

リー・ロジエ、ジェイソン・リヴィングストン、ポール・シェパード ● 16mm(デジタル上映) ● 6min ● 2005 ● アメリカ

▶ 存在論的カウボーイ | The Ontological Cowboy ● 出演 リチャード・フォアマン、ジュリアナ・フランシス ● 16mm(デジタル上映) ● 16min ● 2005 ● アメリカ

▶ フライイング・ソーシー! | Flying Saucy! ● 撮影 ベン・ラッセル ● 16mm(デジタル上映) ● 11min ● 2005 ● アメリカ

▶ マニュエル・レイバー 手っ産 | Manuelle Labor ● 共同制作 ガイ・マディン ● 16mm(デジタル上映) ● 10min ● 2007 ● アメリカ

▶ トニー・コンラッド——ドリーミニマリスト | Tony CONRAD :DreaMinimalist ● 出演 トニー・コンラッド ● 16mm(デジタル上映) ● 25min ● 2008 ● アメリカ

* 9/22 火 21:00上映後、マリー・ロジエによるティーチインあり(予定)

“マリー・ロジエ特集——アンダーグラウンド・スーパースターズ”同時開催!

場所 東京日仏学院エスバス・イマージュ

▶ 2026年9月18日 火・19日 土・20日 日・27日 日 ▶ <https://culture.institutfrancais.jp/>

初期作品
含む
長短編
14本!

J | ラディカル・アマチュアリズム

——ユーゴのアンダーグラウンド・シネクラブ

Radical Amateurism: The Yugoslav Cine-Club Underground

10作品 | 81分

IF 9/20 SUN 18:30 | 9/25 FRI 16:00

「反・映画」「アマチュアリズム」を掲げ、世界初の実験映画祭が開催されていた旧ユーゴ。そのアンダーグラウンド精神あふれる作品集のセレクション。

60年代、ニューヨーク、パリではなく東ヨーロッパ、今はもう存在しない国＝ユーゴスラビアで、アンダーグラウンド映画が花開いていた。ザグレブで1963年に開催されたGEFF(ジャンル映画祭)は、世界初の実験映画祭とも言える。そこは映画作家、理論家、芸術家、科学者たちが集まり構造映画と政治的挑発が熱狂的にぶつかり合う交差点だった。



旅

- ▶ アントニーの壊れた鏡 | Anthony's Broken Mirror ● ドゥシャン・マカヴェイエフ | Dušan MAKAVEJEV ● 16mm(デジタル上映) ● 11min ● 1957 ● ユーゴスラビア
 - ▶ 庭 | The Yard ● ミホヴィル・パンシーニ | Mihovil PANSINI ● 16mm(デジタル上映) ● 13min ● 1963 ● ユーゴスラビア
 - ▶ 円 | Circle ● トミスラフ・ゴトヴァッツ | Tomislav GOTOVAC ● 16mm(デジタル上映) ● 8min ● 1964 ● ユーゴスラビア
 - ▶ ゲーム | Game ● カルポ・ゴディナ+ユーレ・ベルヴァニエ | Karpo GODINA & Jure PERVANJE ● 8mm(デジタル上映) ● 6min ● 1965 ● ユーゴスラビア
 - ▶ I'm Mad ● イヴァン・マルティナーツ | Ivan MARTINAC ● 8mm(デジタル上映) ● 5min ● 1967 ● ユーゴスラビア
 - ▶ タブラ・ラサ | Tabula Rasa ● ニコラ・ジュリッチ | Nikola ĐURIĆ ● 16mm(デジタル上映) ● 9min ● 1969 ● ユーゴスラビア
 - ▶ 旅 | Journey ● ボヤナ・ヴヤノヴィッチ | Bojana VUJANOVIĆ ● 8mm(デジタル上映) ● 2min ● 1972 ● ユーゴスラビア
 - ▶ H ● ヴィエコスラフ・ナキッチ | Vjekoslav NAKIĆ ● 16mm(デジタル上映) ● 4min ● 1972 ● ユーゴスラビア
 - ▶ 有効期限 | Izdah ● イヴァン・オブレンノフ | Ivan OBRENOV ● 16mm(デジタル上映) ● 14min ● 1976 ● ユーゴスラビア
 - ▶ 叫び | the Scream ● イヴコ・シェシッチ | Ivko ŠEŠIĆ ● 16mm ● 9min ● 1978 ● ユーゴスラビア
- * 9/20 日 18:30上映前、マルコ・グリバッチッチ(映画研究者)によるティーチインあり(予定)

K | コレクティボ・ロス・イングラビドス

——儀礼、トランス、抵抗の彼方へ

Colectivo Los Ingrávidos: Ritual, Trance, beyond Resistance

「マテリアリスト神秘主義」と「反植民地主義」を掲げるメキシコ拠点のコレクティブ、本邦初特集!

メキシコ拠点のコレクティボ・ロス・イングラビドス(Colectivo Los Ingrávidos)は、国家、資本、マスメディアが形成してきた支配的な映像のあり方を問い続け、2012年にプエブラ州テワカンで結成された。16ミリフィルムやデジタル映像、サウンド・フッテージ、詩、音響、先住民文化や神話などを重層的に組み合わせながら、これまで500本を超える作品を発表し、政治、身体、儀礼、歴史、記憶をめぐる独自の映像実践を展開している。本特集では、MoMA、ロッテルダム国際映画祭、e-flux Screening Roomなど、国際的な映画祭や美術館・文化機関で注目を集める彼らの代表作を通して、そのラディカルな映像世界を紹介する。

キュレーション 熊澤隆仁(deepblueseas)・中西香南子・新谷和輝

Curated by KUMAZAWA Takahito, NAKANISHI Kanako, NIYI Kazuki

K₁ | サン・カルテット

The Sun Quartet

1作品 | 61分

IF 9/19 SAT 18:30 | 9/24 THU 18:30

『サン・カルテット』は、アヨツィナバ学生失踪事件を起点に、1968年トラテロルコ虐殺から植民地主義の暴力まで、メキシコに刻まれた歴史の亀裂を照射する四部作。即興音楽、詩、抗議運動の記録、多重露光を重ね合わ



サン・カルテット

せながら、国家が独占する歴史の語りに抗う映像実践を提示する。

サン・カルテット パート1——太陽の石

サン・カルテット パート2——サン・ファン川

サン・カルテット パート3——動乱

サン・カルテット パート4——11月2日/アヨツィナバから遠く離れて

▶ サン・カルテット | The Sun Quartet ● 16mm(デジタル上映) ● 61min ● 2017 ● メキシコ

K₂ | イングラビドス作品集

Selected Shorts

5作品 | 69分

IF 9/19 SAT 21:00 | 9/24 THU 16:00

儀礼や神話、政治運動、記憶を横断する短編集。メソアメリカの身体性やリズムを映像化した『狂乱の大地』を軸に、ジョナス・メカスのナレーションを織り込んだ作品、太陽信仰を題材とした作品などを上映。フィルムの物質性と政治性が交錯する、ロス・イングラビドスの映像実践の広がりを提示する。



狂乱の大地

- ▶ 太陽のダンス | Danza Solar ● 16mm(デジタル上映) ● 4min ● 2022 ● メキシコ
- ▶ 狂乱の大地 | Tierra en Trance ● 16mm(デジタル上映) ● 38min ● 2022 ● メキシコ
- ▶ デジャヴのためのノート | Notes for a Déjà Vu ● 16mm(デジタル上映) ● 22min ● 2021 ● メキシコ
- ▶ 闘争 | Batalla ● 16mm(デジタル上映) ● 4min ● 2019 ● メキシコ
- ▶ ブラック・ファイアー・サン | Black Fire Sun ● digital ● 1min ● 2025 ● メキシコ

特別トーク

ロス・イングラビドスの土着的映像実践

ゲスト 熊澤隆仁(deepblueseas)・中西香南子・新谷和輝

日時 9/19 土 18:30 | K1プログラム上映後

L | ラスト・ムーヴィーズ 最後の映画

Last Movies

1作品 | 74分

IF 9/21 MON 16:00 | 9/25 FRI 21:00

カフカ、ケネディ、バゾリーニ、キューブリック…。彼らが死ぬ直前に観た映画はなんだったのか?そしてそれらを繋げる糸とは?徹底したリサーチと読解力で、歴史を彩る著名人たちが観た「最後の映画」の陰謀史が綴られる。



ラスト・ムーヴィーズ 最後の映画

そこにある繋がりとは偶然かあるいは必然か。あらゆる映画には、やがて死を迎える者たちの不滅の光が宿っているだけでなく、台本がない人生を紡ぐ糸が織り成されている。本作品は間もなく幽霊になる者と、スクリーンの向こうの電気の亡霊たちとの最後の交感を捉えた驚異のカatalogである——アラン・ムーア

- ▶ ラスト・ムーヴィーズ 最後の映画 | Last Movies ● スタンリー・シュティンター | Staley SHTINTER ● ナレーション ジェレミー・アイアンズ ● digital ● 74min ● 2026 ● イギリス
- * 9/21 月・祝 16:00上映後、スタンリー・シュティンターによるティーチインあり(予定)

M | 幻視の21世紀

Digital Apparitions

4作品 | 85分

IF 9/21 MON 13:30 | 9/23 WED 18:30

本格的なデジタル映像時代の到来から四半世紀。3DCG、AI、デジタル撮影などの技術革新は、映像表現の可能性を大きく広げてきた。新旧のテクノロジーを交錯させて新たな切り口で物語を展開する4作品。



存在するグレッグ

ウクライナからポーランドへ避難した青年の帰郷を、ロボット犬という未来的な存在を通して描くドキュメンタリー『帰省』。シンプルなアイデアから予測不能な展開を生み出す『存在するグレッグ』。AIアニメーションによって夢幻的な世界を構築した『グラス・ハウス』。そして、『オオカミの家』の制作陣による、伝統的なベットアニメーションを異形の想像力で進化させた『メリムンディ』を上映。

- ▶ メリムンディ | Merrimundi ● ナイルズ・アタラー | Niles ATALLAH ● digital ● 21min ● 2025 ● チリ
- ▶ 帰省 | Homecoming ● ロマン・ヒメイ+ヤレマ・マラシュチュク | Roman KHIMEI + Yarema MALASHCHUK ● digital ● 19min ● 2026 ● ウクライナ
- ▶ 存在するグレッグ | Existential Greg ● ウィル・アンダーソン | Will ANDERSON ● digital ● 9min ● 2025 ● イギリス ● 字幕協力 新千歳空港国際アニメーション映画祭
- ▶ グラス・ハウス | Glass House ● ボリス・ラベ | Boris LABBÉ ● digital ● 36min ● 2024 ● フランス

フィルムメーカーズ・イン・フォーカス

Filmmakers In Focus

N シュルレアリスムの王国 ——追悼・金井勝

The Kingdom of Surrealism: A Tribute to KANAI Katsu

2026年4月に逝去した映像作家・金井勝は、劇映画やドキュメンタリーといった既存のジャンルを自在に横断しながら、独創的な映像表現を切り拓いた。“見手との勝負”を信条に、縦横無尽に発想された作品世界は、日本の実験映画、個人映画の重要な軌跡として、今日なお多くの映像作家に刺激を与えている。



N1 追悼・金井勝——① 無人列島

1作品 | 55分

IF 9/20 SUN 21:00 | 9/25 FRI 11:00

「微笑う銀河系」三部作の第1作「人の巻」。教会を脱走した少年「日出国」は、尼僧たちの追跡から逃れながら成長していく。戦後日本の象徴でもある主人公は、金井自身の投影でもある。自らの体験と戦後史に様々な妄想が絡み合う、新しいシュルレアリスム映画。

▶ 無人列島 | The Desert Archipelago ● 35mm (デジタル上映) ● 55min ● 1969



無人列島

N2 追悼・金井勝——② GOOD-BYE

1作品 | 52分

IF 9/24 THU 11:00

「微笑う銀河系」三部作の第2作「地の巻」。自らのルーツは朝鮮半島にあるのではと想像した金井が、戒厳令下の韓国でロケーションを敢行した。主人公の失語症の少年は道で出会う謎の女性に導かれ、時空を超えて韓国に至る。物語は錯綜し、ついには金井自身が主人公となり、父親探しの空前絶後のロードムービーへと展開する。

▶ GOOD-BYE ● 16mm (デジタル上映) ● 52min ● 1971



GOOD-BYE

N3 追悼・金井勝——③ 王国

1作品 | 80分

IF 9/24 THU 13:30

「微笑う銀河系」三部作の掉尾を飾る「天の巻」。時間の神“クロノス”への挑戦を掲げ、詩人・五九勝丸が現実と幻想を自在に横断するキッシュで新しい神話。自由自在に展開する物語はついにガラバゴスへ。ラストでは過去作の主人公も登場し、新たな創造への意思を高らかに宣言する。

▶ 王国 | The Kingdom ● 16mm (デジタル上映) ● 80min ● 1973



王国

N4 追悼・金井勝——④ 時が乱吹く

1作品 | 62分

IF 9/21 MON 11:00

「歌・句・詩シネマ」三部作として構想された本作は、最初に完成した「短歌篇」「夢走る」で主演を務めた城之内元晴の交通事故死を受け、大きく姿を変えることとなった。以後の二篇は城之内への追悼として制作され、11分ワンショットでカメラが金井の日常の妄想を追う「俳句篇」「一本勝負の蠢斯」、城之内の詩と金井自身の詩が響き合う「詩篇」「ジョーの詩が聴える」を組み合わせ、喪失を創作の力へと昇華させて完成した。

▶ 時が乱吹く | The Stormy Times ● 16mm (デジタル上映) ● 62min ● 1991



時が乱吹く

N5 追悼・金井勝——⑤ 聖なる劇場＋ スーパードキュメンタリー 前衛仙術

2作品 | 62分

IF 9/22 TUE 18:30 | 9/25 FRI 13:30

「聖なる劇場」は初めてのビデオ作品。庭にある小さな泉水にやってくる野鳥や虫たちにカメラを向ける。ゆったりとした日常の記録はやがて亡くなったかつての同志たちへの思いに転換していく。『スーパードキュメンタリー 前衛仙術』は老いを克服しようと修行をする“勝丸”をドキュメントする。山鳩の雛の育成などいくつかの偶然を取り込みつつ、デジタル映像という新しい“仙術”も駆使してユーモラスに展開。海外映画祭でも人気を博した。

▶ 聖なる劇場 | Holy Theater ● digital ● 29min ● 1998 ● 日本
▶ スーパードキュメンタリー 前衛仙術 | Super Documentary: The Avant-Garde Senjutsu ● digital ● 33min ● 2003



聖なる劇場



スーパードキュメンタリー 前衛仙術

イメージフォーラム映像研究所の50年

50 Years of Image Forum Institute of Moving Image

0 イメージフォーラム映像研究所の50年 50 Years of Image Forum Institute of Moving Image

1977年に第1期がスタートしたイメージフォーラム映像研究所は本年度で50期となった。「研究所」の特徴は、講評を通じて個々の受講生（研究生）が自分自身の表現を追求、実現することにより、独創性あふれる多種多様な作品が生み出されてきた。卒業制作の数は2千本近くにのぼり、日本の映像シーンの中で決して小さくない位置を占めるに至っている。今回は、それら卒業制作の中から27作品をセレクトして上映する。

01 映像研究所の50年——①

5作品 | 85分

寺山 9/20 SUN 16:30 | 9/22 TUE 19:00

▶ すべては沈黙の色 | All Is A Color of Silence ● 小瀬村真美 | KOSEMURA Mami ● digital ● 13min ● 2001 [24期]
▶ 絵巻 その2 | Emaki 2 ● 石田尚志 | ISHIDA Takashi ● 8mm (デジタル上映) ● 4min ● 1996 [19期]



正常位

▶ 正常位 | Normal Position ● 加藤到 | KATO Itaru ● 8mm ● 8min ● 1978 [1期]
▶ 冬のスフィンクス | The Winter Sphinx ● 山口保幸 | YAMAGUCHI Yasuyuki ● 8mm ● 15min ● 1981 [4期]
▶ セルロイドの砂漠 | Celluloid Desert ● 黒川芳朱 | KUROKAWA Hoshu ● 8mm ● 45min ● 1981 [4期]

02 映像研究所の50年——②

4作品 | 87分

寺山 9/20 SUN 19:00 | 9/23 WED 14:00

▶ 正しいの反対は左 | The Opposite of Tadashii Is Left ● ヨンハ・ジェームズ・ファン | Yongha James

- HWANG ● digital ● 11min ● 2025[48期]
- ▶ in the room ● YUKA SATO ● digital ● 7min ● 2014[37期]
- ▶ 極東のマンション | The Far East Apartment ● 真利子哲也 | MARIKO Tetsuya ● 8mm ● 32min ● 2003[26期]
- ▶ 観音菩薩・母光 | Kannon Bodhisattva: Mother's Light ● 村上賢司 | MURAKAMI Kenji ● 8mm ● 37min ● 1992[15期]



極東のマンション

O3 映像研究所の50年——3

4作品 | 81分

寺山 9/21 MON 14:00 | 9/23 WED 16:30

- ▶ 桃色ベビーオイル | Peach Baby Oil ● 和田淳子 | WADA Junko ● 8mm(デジタル上映) ● 16min ● 1995[18期]
- ▶ three minute out ● 田端志津子 | TABATA Shizuko ● 8mm ● 3min ● 2000[23期]
- ▶ 白い塔は時を刻む | A Tick by The White Tower ● 森史武 | MORI Fumitake ● 8mm(デジタル上映) ● 24min ● 1998[20期]
- ▶ 中村三郎上等兵 | Private First Class Nakamura Saburo ● 中村のり子 | NAKAMURA Noriko ● digital ● 38min ● 2008[31期]



中村三郎上等兵

O4 映像研究所の50年——4

6作品 | 78分

寺山 9/22 TUE 14:00 | 9/23 WED 19:00

- ▶ 大寒波 | Severe Cold Wave ● 成田麻美 | NARITA Asami ● 8mm ● 10min ● 1998[20期]
- ▶ ビビンポップ | Pipin Pop ● コタキマナブ | KOTAKI Manabu ● 8mm ● 3min ● 1999[21期]
- ▶ 強制送還 | Deportation ● 猿山典宏 | SARUYAMA Norihiro ● 8mm ● 3min ● 1995[18期]
- ▶ つぶつぶのひび | Grainy Days ● 大木千恵子 | OKI Chieko ● digital ● 19min ● 2004[27期]
- ▶ あながちまちがってるともいえない空 | You Can't Always Say The Sky Is Wrong ● 才木浩美 | SAIKI Hiromi ● 8mm(デジタル上映) ● 18min ● 1996[19期]
- ▶ 骨肉思考 | Bone and Flesh Cogitation ● 竹藤佳世 | TAKEFUJI Kayo ● 8mm(デジタル上映) ● 25min ● 1997[20期]



ビビンポップ

O5 映像研究所の50年——5

7作品 | 82分

寺山 9/22 TUE 16:30 | 9/24 THU 19:00

- ▶ THE 梅屋商店 | The Umeyashoten ● 渡辺亮 | WATANABE Ryo ● digital ● 9min ● 2010[33期]
- ▶ 恒星日 | Sidereal Day ● 水上弘 | MIZUKAMI Hiroshi ● 8mm ● 9min ● 1997[20期]
- ▶ 阿片譚 | Opium Saga ● 倉重哲二 | KURASHIGE Tetsuji ● 8mm(デジタル上映) ● 14min ● 2000[23期]
- ▶ 鼻の日 | Day of Nose ● 和田淳 | WADA Atsushi ● digital ● 10min ● 2005[28期]
- ▶ 間男 | Between Man ● 芹沢洋一郎 | SERIZAWA Yoichiro ● 8mm(デジタル上映) ● 6min ● 1989[12期]
- ▶ The Miracle ● 村岡由梨 | MURAOKA Yuri ● 16mm ● 18min ● 2003[26期]
- ▶ 変形作品第1番 | Metamorphose Works No.1 ● 黒坂圭太 | KUROSAKA Keita ● 8mm ● 16min ● 1985[8期]



変形作品第1番

O6 映像研究所の50年——6

1作品 | 180分

寺山 9/21 MON 16:30

- ▶ 松前君の映画 | A Film of Buddy Matsumae ● 大木裕之 | OKI Hiroyuki ● 8mm(デジタル上映) ● 180min ● 1988-1989[12期]



松前君の映画

パフォーマンス

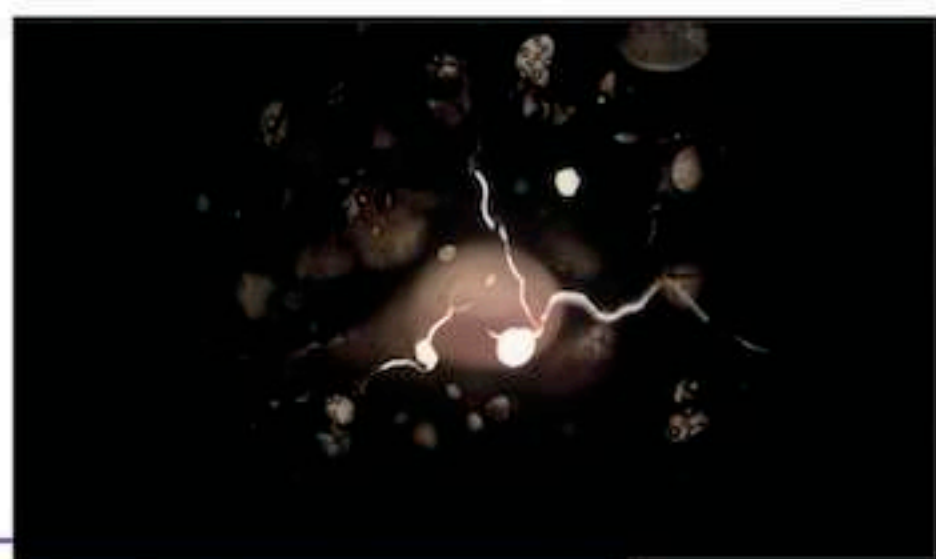
P ルイス・マシアスによる エクспанデッド・シネマ・パフォーマンス

The Expanded Cinema Performance by Luis MACÍAS

2作品 | 45分

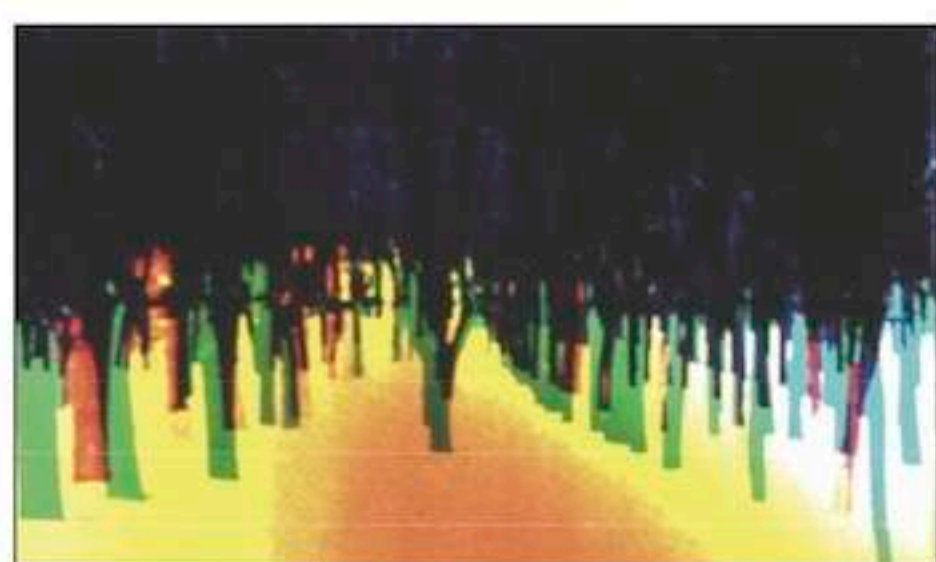
寺山 9/19 SAT 19:00

インディペンデント・フィルムラボ「CRATER-Lab」の創設者の一人でもあるルイス・マシアスは、「映像作曲家」と名乗り、映画を光と物質の現象と捉え創作を行っている。2台の16ミリ映写機を使い、映像も音も物語もない映写の極限に挑む「虚ろな目と怒りと欲望に燃える瞳孔」、森のイメージが観客を包み込む「内側・外側・周囲」を上演。



虚ろな目と怒りと欲望に燃える瞳孔

- ▶ 虚ろな目と怒りと欲望に燃える瞳孔 | The Eyes Empty And The Pupils Burning of Rage And Desire ● 16mm映写機 ● 20min ● 2024 ● スペイン
- ▶ 内側・外側・周囲 | Inside-Outside-Around ● 16mm映写機・スライド映写機など ● 25min ● 2024 ● スペイン



内側・外側・周囲

llull
institut
ramon llull

インスタレーション

会期中、シアター・イメージフォーラムのロビーで展示

映画は時間の芸術だと言われるが、時間に関する様々な制度に縛られるものでもあった。映画前史を題材とした映画『フィルム・ビフォー・フィルム』から40年。本作に登場する「時間を映す幻燈」をヒントに制作。上映時間から解放された配信の映画と、時間に拘束されたかつての「映画」との関係性を考察する試み。



映画史(インターネット以前)

- ▶ 映画史(インターネット以前) | Film History (Before the Internet) ● 伊藤隆介 | ITO Ryusuke ● ミクストメディア ● 2026 ● 日本

40TH IMAGE FORUM FESTIVAL

イメージフォーラム・フェスティバル2026

氾濫する映画

LIGHT SPILLS: BODY, FILM, PERFORMANCE

1 1987年にスタートしたイメージフォーラム・フェスティバルは40回目を迎えます。本フェスティバルが「映像が『個人の表現メディア』となること」を謳って始まった当時、映像を作り、発表することは特別な行為でした。しかし、今や誰もがスマートフォン一台で映像を撮影し、編集し、世界へ発信することができます。映像表現はかつてないほど身近なものになりました。その結果、一つひとつの映像に向き合い、その力を受け取るということは、以前とは少し違うものになっているのかもしれませんが、では、そんな時代になぜ映像をつくるのか。このフェスティバルでは、現在の映像を取り巻く環境や既存の表現に安住せず、創造のパワーを氾濫させ続ける作り手たちに注目します。彼らと観客のみなさんとの間に散る火花の先に、これからの映像表現の可能性を見つけないと思います。

タイムテーブル

	9/19 [SAT]	9/20 [SUN]	9/21 [MON]	9/22 [TUE]	9/23 [WED]	9/24 [THU]	9/25 [FRI]
シアター・イメージフォーラム Theatre Image Forum IF							
11:00	A 東アジア・エクスペリメンタル 1 [94min] + 上映後Q&A 予定	D 東アジア・エクスペリメンタル 4 [85min] + 上映後Q&A 予定	N₄ 追悼・金井勝 4 時が乱吹く [62min]	F 東アジア・エクスペリメンタル [109min] + 上映後Q&A 予定	B 東アジア・エクスペリメンタル 2 [90min] + 上映後Q&A 予定	N₂ 追悼・金井勝 2 GOOD-BYE [52min]	N₁ 追悼・金井勝 1 無人列島 [55min]
13:30	B 東アジア・エクスペリメンタル 2 [90min] + 上映後Q&A 予定	E 東アジア・エクスペリメンタル 5 [92min] + 上映後Q&A 予定	M 幻視の21世紀 [85min]	D 東アジア・エクスペリメンタル 4 [85min] + 上映後Q&A 予定	C 東アジア・エクスペリメンタル 3 [86min] + 上映後Q&A 予定	N₃ 追悼・金井勝 3 王国 [80min]	N₅ 追悼・金井勝 5 聖なる劇場+前衛仙術 [62min]
16:00	C 東アジア・エクスペリメンタル 3 [86min] + 上映後Q&A 予定	F 東アジア・エクスペリメンタル [109min] + 上映後Q&A 予定	L ラスト・ムーヴィーズ [74min] + 上映後ティーチン(予定)	E 東アジア・エクスペリメンタル 5 [92min] + 上映後Q&A 予定	A 東アジア・エクスペリメンタル 1 [94min] + 上映後Q&A 予定	K₂ イングラビドス 2 [69min]	J 旧ユーゴ地下シネクラブ [81min]
18:30	K₁ イングラビドス 1 [61min] + 上映後トーク	J 旧ユーゴ地下シネクラブ [81min] + 上映後ティーチン(予定)	G マリー・ロジェ長編 [74min] + 上映後ティーチン(予定)	N₅ 追悼・金井勝 5 聖なる劇場+前衛仙術 [62min]	M 幻視の21世紀 [85min]	K₁ イングラビドス 1 [61min]	G 授賞式(約30min) + マリー・ロジェ長編 [74min]
21:00	K₂ イングラビドス 2 [69min]	N₁ 追悼・金井勝 1 無人列島 [55min]	H マリー・ロジェ中編 [59min] + 上映後ティーチン(予定)	I マリー・ロジェ短編 [68min] + 上映後ティーチン(予定)	H マリー・ロジェ中編 [59min]	I マリー・ロジェ短編 [68min]	L ラスト・ムーヴィーズ [74min]
寺山修司(イメージフォーラム3階) Terayama Shuji (3rd floor, Image Forum) 寺山							
14:00	—	—	O₃ 映像研究所の50年 3 [81min]	O₄ 映像研究所の50年 4 [78min]	O₂ 映像研究所の50年 2 [87min]	—	—
16:30	—	O₁ 映像研究所の50年 1 [85min]	O₆ 映像研究所の50年 6 [180min]	O₅ 映像研究所の50年 5 [82min]	O₃ 映像研究所の50年 3 [81min]	—	—
19:00	P 特別パフォーマンス [45min]	O₂ 映像研究所の50年 2 [87min]	—	O₁ 映像研究所の50年 1 [85min]	O₄ 映像研究所の50年 4 [78min]	O₅ 映像研究所の50年 5 [82min]	—

入場料[消費税込]

シアター・イメージフォーラム

● 一般1,500円 | 学生800円 | シニア1,300円 | イメージフォーラム会員・障害者1,000円

● 4回券4,000円

* 全席指定。座席指定券は、上映日の3日前より、シアター・イメージフォーラムのオンラインチケット購入サイトおよび劇場窓口で販売します。劇場窓口での当日受付は、各日10:30より行います。* 4回券は劇場窓口で販売します。ご購入された4回券は、上映日の3日前より劇場窓口で座席指定券と引き換えができます。オンラインチケット購入サイトではご使用いただけません。

寺山修司 イメージフォーラム3階

● 一般1,000円 | 学生500円 | イメージフォーラム会員・障害者700円

* 自由席、各回入れ替え制。各回15分前開場予定。* 入場整理券は、初回開映時刻の1時間前より3階受付で販売します。* 4回券もご使用いただけます。

MAP



シアター・イメージフォーラム

Theatre Image Forum

寺山修司 イメージフォーラム3階

TERAYAMA Shuji (3rd floor, Image Forum)

東京都渋谷区渋谷2-10-2 | 2-10-2 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo

やむを得ない事情により、上映作品、上映フォーマット、上映時間の変更が生じるばあいがあります。



イメージフォーラム・フェスティバル2026事務局

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-2

TEL 03-5766-0116



www.imageforumfestival.com